

山林から「木の酒」までの商用規模でのプロセスフローの構築と モデル事業提案

1 代表機関・研究統括者

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所 大塚祐一郎

2 研究期間：令和7年度～令和9年度（3年間）

3 研究目的

実生産規模の安定的な「木の酒」製造プロセスの確立と素材生産現場から製造場までの原料調達ルートの確立、製品としての「木の酒」の認証制度など、商用規模の川上から川下までの「木の酒」のビジネスフローを確立する。

4 研究内容及び実施体制

① 実生産規模の安定運転条件の確立と試作品における安全性確認および風味評価

50kg/バッチの製造規模における丸太から「木の蒸留酒」までの安定的な製造プロセスの確立と「木の酒」の品質確認。

（森林総合研究所、エシカル・スピリッツ（株）、村上木材（株））

② 里山二次林からの安定的な広葉樹供給体制の構築と希少種保護を目的としたガイドライン策定

素材生産現場から製造場への安定的原料供給体制の構築と原料樹木選定における希少種保護を目的としたガイドラインの策定

（森林総合研究所、エシカル・スピリッツ（株）、村上木材（株））

③ 消費者が納得する品質を維持するための認証制度の検討と海外輸出に向けた課題抽出

森林総研法の「木の酒」の認証基準と運用方法の検討及び海外輸出に向けた品質保証条件の調査と課題抽出

（森林総合研究所、エシカル・スピリッツ（株）、村上木材（株））

5 最終目標

都市近郊型、山村地域型それぞれの「木の酒」事業のモデルケースを提示し、全国の山村地域で「木の酒」事業展開を喚起して、日本の政策に資する新たな新産業を創出する。

6 期待される効果・貢献（

日本各地の林業と酒造メーカーが連携する日本の国産材を活用した新たな産業が生み出されることで、「みどりの食料システム戦略」および「農林水産研究イノベーション戦略」に資する山村振興、林業振興、国産材需要拡大に波及効果を及ぼすことが期待される。

研究目的

実証規模(木材2kg/バッチ)の「木の酒」製造プロセスをもとに実生産規模(50kg/バッチ)の安定的製造プロセスを確立する。安定的な原料調達ルート構築と消費者が納得する品質保証制度の検討と合わせて、「木の酒」の川上から川下までのビジネスフローを構築する。

これまでの成果

実証規模の製造プロセス

「木の酒」実証製造施設(2kg/バッチ)



蒸留酒・スピリッツ等

1-2L単位

少量試作品



実証規模から実生産規模へ

研究内容

原料調達
(中課題2)



安定供給体制
トレーサビリティ確保
希少種保護のガイドライン

大型製造プロセス
(中課題1)



つくば製造場

エシカル・スピリッツ(株)



新宮市製造場

村上木材(株)

25倍以上のスケールアップ
品質の再確認と品質向上

「木の酒」の品質
(中課題3)



「木の酒」認証制度設計
海外輸出の課題抽出

最終目標

「木の酒」事業モデルケースを示し山村地域や林業に資する新産業を創出する

研究実施体制

木の酒研究コンソーシアム

(森林総合研究所、エシカル・スピリッツ(株)、村上木材(株))

期待される効果

「木の酒」が日本の国産材を活用した新たな産業となることで山村振興、林業振興、国産材需要拡大に波及効果を及ぼすことが期待される。